

FRONTEO 取締役 CSO 豊柴 博義が  
「ART FAIR TOKYO 20」に登壇、  
現代アーティスト・神楽岡 久美氏と  
“アートとAI”をテーマに特別トークセッション

株式会社FRONTEO（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本 正宏、以下「FRONTEO」）は、日本最大級のアートフェア「アートフェア東京」の20回目となるエディション「ART FAIR TOKYO 20」において、当社取締役/CSO（Chief Science Officer）豊柴 博義が、オフィシャルトークイベント「Dialogue : ASK ART, WHY ?」に登壇し、現代アーティストの神楽岡 久美氏と特別トークセッションを行うことのお知らせします。

SESSION #2

ART ← 巽

## AIの目と審美眼

- AI時代、美的な価値を決めるのは誰なのか

AIが画像や音楽、文章を生成し、膨大なデータから答えを導き出す時代において、芸術や美の価値を判断する主体は誰なのだろうか。

人間の審美眼は、経験や文化、身体感覚、社会的文脈の中で形成されてきた。

一方でAIは、大量のデータをもとに美のパターンを学習する。

人間の学習とAIの学習はどこが異なり、どこで交差するのか。

審美眼は属人的な感覚なのか、それとも抽出可能なものなのか。

AIの“目”と人間の“審美眼”を手がかりに、

AI時代における芸術の価値と人間の創造性の可能性を考えます。

ASK ART,  
WHY?

ART FAIR TOKYO

オフィシャルトークイベント  
Dialogue:ASK ART, WHY?

2026.3.15

14:00-14:50

SPEAKERS

アーティスト  
神楽岡 久美  
Kumi Kagurazaki(株)FRONTEO取締役CSO / 博士 (理学)  
豊柴 博義  
Hiroshi Toyochiba

ART FAIR TOKYOは、日本最大級かつアジア最古のアートフェアの一つであり、2005年の開始以来、日本および世界の優れたアートギャラリーが集う場として開催されています。日本の美術市場をリードする存在として、古美術・工芸・日本画から近現代アートまで多彩なジャン

ルの作品を取り扱い、国内外から数万人規模のディーラーや世代を超えたコレクター、美術ファンが来場し、141軒の厳選されたギャラリーが参加します。

本特別トークセッションでは、“アートとAI”をテーマに、AI技術の急速な進展によって変容しつつあるアートの在り方について考察します。「AIが普及する時代において、芸術における人間の領分とは何か」や「アートとAIに共通要素はあるのか」、「美に関するデータを学習したAIは人間の審美眼を拡張し得るか」といった問いを軸に、アートとAIの関係性を多角的に議論します。豊柴の数学者としての視点に基づくAI研究や、AI創薬領域における社会実装の知見と、神楽岡氏による人間の美意識に対する探究知見を掛け合わせることで、AI時代におけるアートと人間の可能性を探ります。

### 【ART FAIR TOKYO 20概要】

イベント名称：ART FAIR TOKYO 20

開催日：2026年3月13日（金）・14日（土）・15日（日）

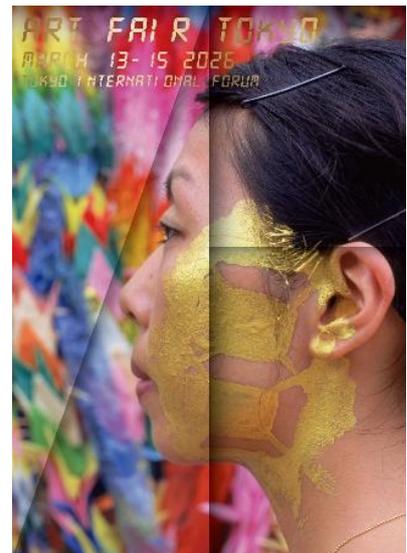
会場：東京国際フォーラムならびにサテライト会場

オフィシャルウェブサイト：<https://artfairtokyo.com/>

入場方法：[https://artfairtokyo.com/visitor\\_info](https://artfairtokyo.com/visitor_info)

主催：エートーキョー株式会社

後援：外務省、文化庁、アメリカ大使館、ベルギー王国大使館、ブリティッシュ・カウンシル、チェコ共和国大使館、マレーシア大使館、スペイン大使館、シンガポール共和国大使館、イタリア大使館、アンスティチュ・フランス、ブラジル大使館、東京観光財団ほか



### 【登壇トークセッション概要】

開催日時：2026年3月15日（日）14:00～14:50

登壇セッション：セッション2「AIの目と審美眼 - AI時代、文化的価値を決めるのは誰なのか」

会場：東京ミッドタウン八重洲 イノベーションフィールド 4F 大会議室

オフィシャルウェブサイト：<https://art-tunes.art/ja/ask-art-why>

### 【登壇者プロフィール】

・神楽岡 久美氏（現代アーティスト）



神楽岡 久美氏は社会と身体との接点に着目し、新たな「身体像」を探求してきました。2016年よりスタートした作品『美的身体の変態モルフォーゼ』では、「美を手に入れたい」という普遍的な人類の欲望にフォーカスし、身体と美の関係を多角的に捉える制作活動を行っています。

彼女の作品は、リサーチとプロトタイプングを通じて形を成しており、ウェアラブルな立体作品や装置、その設計図となるドローイング、試作・検討過程であるプロトタイプ、映像・写真表現、そしてリサーチで収集した資料やレポートをふくむ総合的なインスタレーションです。2022年～2023年には公益財団法人吉野石膏美術振興財団の選定により在外研修アーティストとしてニューヨークで活動しており、帰国後はニューヨークでのリサーチとアーカイブ資料をもとに展覧会を開催しています。さらに近年は、美を含む社会的価値や規範、コミュニティ、ルールや教育を一つの“フィクション”として捉え、その構造と力学を可視化する試みへと展開していきます。

#### ・豊柴 博義（株式会社FRONTEO 取締役/CSO）



早稲田大学大学院 理工学研究科数学専攻。理学博士（数学、2000年に博士号取得）課程中の1999年より九州大学医学部附属病院の医療情報部にて医療データの統計解析を担当。2000年よりアメリカ国立環境健康科学研究所（NIEHS）において、データ解析による発がんプロセスの研究などに参加。2004年からは独立行政法人国立環境研究所にて、毒性データの統計解析・疫学研究のデザインとデータ解析の研究に従事。2006年に武田薬品工業に入社し、バイオインフォマティクス分野の研究員、グローバルデータサイエンス研究所・日本サイト

バイオインフォマティクスヘッド、サイエンスフェローを歴任。また、臨床試験データにおける遺伝子発現データ解析やターゲット探索、さらに免疫と癌におけるバイオマーカー探索にも携わる。2017年FRONTEOに入社し、ライフサイエンスの領域に特化したアルゴリズムを開



発。テキストのベクトル化という特徴を生かし、現在までに論文探索、創薬支援、認知症診断支援、転倒予測などのさまざまなAIソリューションを開発。2021年執行役員に就任。2024年より取締役役に就任し、CSOとしてライフサイエンスAI事業の更なる成長を目指す。

■株式会社 FRONTEO について URL : <https://www.fronteo.com/>

FRONTEO は、自社開発の AI「KIBIT (キビット)」の提供を通じて、日夜、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断を支援し、イノベーションの起点を創造しています。当社独自の自然言語処理技術 (日本・欧州・米国・韓国特許取得済) は、汎用型 AI とは異なり、教師データの量およびコンピューティングパワーに依存することなく、高速かつ高精度での解析を可能にします。加えて、解析した情報をマップ化 (構造を可視化) する特許技術を活用することで、「KIBIT」が専門家のインサイトにダイレクトに働きかけることができ、近年、「KIBIT」の技術が創薬の仮説生成や標的探索にも生かされています。



「KIBIT」の独自技術およびアプローチを通じて、「集合知に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、情報社会のフェアネスを実現する」理念の実現に向けて、[ライフサイエンス AI](#)、リスクマネジメント ([ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野](#)、[経済安全保障分野](#)、[リーガルテック AI 分野](#))、DX ([ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野](#)) の各事業で社会実装を推進しています。

2003年8月創業、2007年6月26日東証マザーズ (現 : 東証グロース) 上場。日本、米国、韓国で事業を展開。資本金 915,057 千円 (2025年12月31日時点)。

※FRONTEO、KIBIT は FRONTEO の日本および韓国、米国、欧州における商標または登録商標です。

<お問い合わせ先>

株式会社 FRONTEO 広報担当

Email : [pr\\_contact@fronteo.com](mailto:pr_contact@fronteo.com) 電話 : 080-4321-6692